

自著と
その周辺

DJ キンさまの感染ラジオ! Season 1 感染・免疫・微生物編

監修 金井信一郎

リーダムハウス
207頁
2016年9月刊行
1,800円+税

突然変異で人間の言葉を話せるようになった細菌のDJ キンさま（本名：アシネトバクテロピブリオテウス・エンテロクレブシェリキア3世）が、感染症をネタにして、オネエキャラで爆裂トークするラジオ番組という設定で、読者をリスナーに見立てて語りつくすスタイルとなっているのが本書である。最初の部分を少しだけ紹介すると…

「吾輩は菌である。名前は匿名で…。なんつって～

どうもお～っ！さてさて、今日から始まりました「DJ キンさまの 感染ラジオ！」。

はい、はあーい！感染ナビゲーターのキンさまです！第1回目の放送からお聴ききただいて、どうもアリガトウーっ！えっ？誰も聴いてないってか。あははのは～っ！」

一見ふざけているようにもとれるが、感染・感染症・感染対策にかかわる真面目な内容を題材にして、癖になりそうな強烈なキャラで読者を引っ張っていきけるようなタッチで、気がついたら学習できていた！というオモシロ書籍に仕上がっている。専門書というよりは、初学者向けの内容であるので、医療系学生や医療者でこれから感染症を勉強してみたい人に特にお勧めしたい。

自分自身も学生の頃は感染症の勉強が得意な方ではなかったが、感染症に苦手意識のある人は一定数存在する。感染症が苦手になる原因のひとつに用語の煩雑さがあると感じている。細菌もある時は「緑膿菌」と言われたり、またある時は「*Pseudomonas aeruginosa*」と言われたり、抗菌薬も「アンピシリン・スルバクタム」と一般名で言われることもあれば、商品名で「ユナシン」や「スルバシン」などと言われることもあり、同じものを示していることを理解していない人にはこれらを併用されるとちんぷんかんぷんである。菌や抗菌薬の名前なので頑張って覚えるしかないが、覚えるまでが一苦勞、無理して覚えると感染症でもないのに発熱してくる人もいるかもしれない。常々、そのような方でもストレスなく、楽しく感染症を勉強できる方法がないかと思っていた。そんな中で知り合いの編集者から「DJ キンさまの感染ラジオ！」の監修の話を頂き、まさに「渡りに舟」で快諾をさせていただいた。キンさまは昭和なダジャレと懐かしいナンバーをちょいちょいぶち込んで来るが、そこはご愛嬌。いつの間にか読み進み、感染症が苦手な人でも楽しくなること間違いなしである。本書はシーズン1 感染・免疫・微生物編で、感染症の初歩の部分にあたる。感染症の治療や感染対策など、まだまだ感染症の分野は非常に広いので、シーズン2、シーズン3と続けて、感染症に苦手意識のある人を減らし、感染症好きを少しでも増やせればと考えている。

最後はDJ キンさまいつもの締め挨拶で、

「じゃあ次回の放送も乞うご期待！お相手はあなたの感染ナビゲーター キンさまでした。来週も same time, same channel でエ～！」

(信州大学医学部附属病院感染制御室 金井信一郎)

